

いしかれん だより

第21号

1998. 10

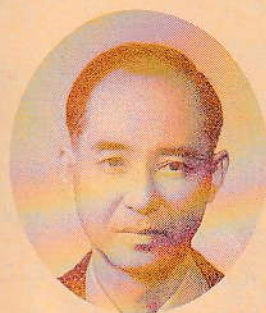
石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町3番1
石川県精神保健福祉センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

家族会にかかわった13年間の思い出

石 家 連

副会長 梅 田 克 広



巻頭言執筆の順番が回ってきましたが、文筆の才もなく不勉強の私には少々重荷ですが、私の体験を発表してその責任を果たしたいと思います。

私が家族会にかかわりを持って早13年になります。新しく家族会に入られる方は「今の私はどうしたらよいか分からない」と救いや、体験をした人の助言を求めて来られます。そこで先ず「皆あなたと一緒にですよ。ここでは今まで一人で悩んでいたことを思い切り話して下さい。話をし、聴いて貰うことで心のやすらぎが得られると思います。」と仲間として受け容れます。次に保健所で実施されている家族教室や家族会などの勉強会に積極的に参加するようすすめています。そこで自分の心を開き、病気に対し正しい知識を持ち、家族の間で差別偏見を排除することができれば、障害者には家庭が真の憩いの場になると思います。

9月1日に金沢市の精神保健家族教室で行われた白石弘巳先生の講演の中で、病気には負けない家族のための5つのポイントとして「この病気は障害が残ったり完治が難しいものであるということを理解すること」「何とかなるだろうと希望を持つこと」「何とかしたいという意志を持つこと」又「本人に関わっていく決意をすること」一方で「自分の人生の課題や楽しみを別に持っていること」をあげておられました。はたして自分はどうかの自問自答していると

ころです。

さて、県連にかかわる思い出を少し述べます。

私が最初に参加した全国大会は平成2年10月熊本市で行われ、テーマは「家族の目覚めは社会を変える」でした。参加者は石家連から3名でした。その時最も印象に残ったのは講演会の中で厚生省の技官が「……大勢の研究者が真剣に取り組んでいるので、いずれ原因についても何かの発見があるかもしれません。」と言われたことです。また、評論家の俵萌子さんは「皆さんは今暗いトンネルの中にいますが前方にかすかなあかりが見えています。朝の来ない夜はない。希望を持って頑張ってください。」と話され、この2点が家族会活動の励みになりました。

平成3年11月山中温泉でおこなわれた北信越ブロック研修会は、関係者の協力を得ながら地元家族会が中心となり、規模は小さかったけれど当時の家族会の実力からすれば大成功をおさめました。その後平成8年9月粟津温泉で行われた小松大会は記憶に新しいことですが、これまでの北信越ブロック研修会で最高の参加人数（380名）となり、全家連からも高く評価されました。

県連としての地道な努力が続けられた結果、今日では作業所数も大幅に増加し、家族会数も増え、もはや精神保健福祉の後進県ではありません。

新しい感覚を持つニューリーダーも育ちつつあります。これからも「家族会の原点は何か」を考えながら家族会員の皆さんと歩んで行きたいと思います。

石家連の今年度の活動について

石川県精神障害者家族会連合会

会長 林 久 夫

現在、社会福祉基礎構造改革の提言を受けて、日本の福祉施策の在り方が根幹から見直されていますし、私たちに身近な精神保健福祉法も、来年の見直しに向けて急ピッチで検討されています。

このような大きな転換期を迎え、私たち家族会はお互いの気持ちを分かち合い、経験を交換しあい、支え合う活動を中心に据えながら、法や制度についての学習、手帳サービス拡大などをはじめとする福祉施策充実に向けた運動などに取り組まなければなりません。

また、当事者の人たちへの協力や、他の障害者団体との連携など家族会のかかえる課題も少なくありません。

さて、今年度は、県連として下記のような活動を計画しています。会員の皆様の積極的な参加と、課題に取り組むための支援とご協力をお願いいたします。

1 精神障害者家族会と病院長との懇談会

(平成10年11月4日(水))

会場 精神保健福祉センター)

石川県精神保健福祉協会との共催の毎年恒例の行事です。病院長や病院のスタッフに参加していただき、病院での治療やリハビリについて教えてもらったり、家族会から質問や要望をしたりします。質問や要望事項は各家族会毎にまとめて、県連に提出して下さい。

2 心のふれあい講演会

(平成11年3月13日(土))

会場 金沢市保健所すこやかホール)

地域住民や関係者に精神障害者を理解して

もらうことを目的に単会持ち回りで開催しており、今年度で5回目になります。今回は金沢市の地域家族会「けやきの森」が担当し、現在開催に向けて企画に精を出していると聞いています。

3 専門委員会

先にも述べましたが、近年精神障害者の福祉の変化は著しいものがあります。従来の理事会、常務理事会だけでは対応が困難になってきている状況をふまえ、今年度専門委員会を発足させ、研究活動を開始することになりました。精神保健福祉法の見直しや成年後見制度についての学習、行政などに対する要望事項の検討、社会復帰施設設立に関する研究、家族会活動の今後についての検討などの課題のなかから、テーマをしばって取り組んでいきたいと思っています。

4 たよりの発行

今年度も「いしかれんだより」を2回発行する予定です。取り上げてほしい企画の要望や、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

5 その他

「平成10年度全国一斉要望行動」、「手帳サービス拡大に関する請願書」署名活動をはじめとして、必要に応じて行政などにさまざまな要望活動を行なっていきたいと思っています。



「心のふれあい講演会」を開催して

みそぎ会会長 佐 渡 若 男

石川県連としての事業とはいえ、初めて七尾鹿島地区での開催を引き受けましたとき、その正否について私達の力量からして大変心配になるところでありました。約十ヶ月の準備期間がありましたので先ず「総会」にはかり、その後は都度の例会などを通して会員全体に徹底するように呼びかけていきました。何時も会員の皆さんに申し上げていることは、事業や行事を運営するときは自らの積極的な参加などの自助努力なくして他からの支援や協力を得ることはできないこと。まして身体、知的、精神の三障害者のうち私達の取組みや活動量が一番少ないことの現状認識であります。従ってこの機会を通して行政や医療、福祉関係先をはじめ地域一般へ、もっと理解をしてもらうべく広く働きかける活動を強めようということに意義を求めてゆくこととしました。



講演会の内容としては「地域で共に暮らす」、「誰もが住みよい地域をめざして」をキャッチフレーズに、講師として新潟県守門村健康センターの山之内宏課長に精神保健福祉の実践活動内容を講演していただき、続いてのミニシンポジウムの中で地元公立能登第二病院長の平松氏、ワークショップ「野の花」所長の徳田氏、株式会社ジョインの開氏よりそれぞれの立場からのご報告とご意見を発言いただきました。特

に山之内課長におかれては、守門村の実績についてまとめたビデオテープ「あちこたねえ」が全国の市町村に配布され福祉行政の手本にされていることでも有名な方であります。講演を聞かれた方は、その行政に臨む姿勢と指導理念、又それを話される人柄について何かを感じ得るところが大きかったのではないのでしょうか。



さて、私達家族会全員がどうかかわったかであります。昨今何処でも言われていることですが行事、会議への参加出席が大変少ないという趨勢にある中で当会も例外ではありませんが、久しぶりに多数の参加をみました。又事務局の指導を得ながらも運営面で受付、挨拶、進行、接待、連絡やその他雑用をも含めて役割分担を負い何とか前面に立つことが出来ました。

最初に申し上げましたように参加人数、企画した内容、進行などに大変不安を抱いていましたが、結果は皆様のご指導、ご協力により一定の成果をおさめることが出来たと思っています。またこうした観点もさること乍ら、会員の意識と行動が従来よりも広がりをもったことを実感しました。私としてはこのことが何よりもの成果と考え、次につなげてゆきたいと考えています。関係者の皆様のご指導ご協力を感謝いたします。

常務理事に就任して

しらぎく会

会長 梶

義 伸

このたびしらぎく会の会長ならびに、県連家族会常務理事の大役を預かることになり、身勝手な私がつとまるやいなやと恐縮しております。

家族会とのつながりを振り返りますと私の長男が発病して病院のお世話になり、関係の方々の援助がご縁で私のできることなら手伝いさせていただくことで家族会、のぞみ作業所所長（非常勤ボランティア）と家族会副会長を昭和62年に当時のしらぎく会下口会長より承り、以来苦闘のくりかえしでしたがなんとか助けていただいて今日に至りました。

しかし、ここで発想の転換が必要——今まででは前奏と考え、これからが本番と心新たに挑戦する決意であります。ご指導お願いします。私には物事を先々と見るくせがありまして、現在県下に小規模作業所が14ヶ所、関係者、家族会の必死の努力により出来ました。

これを足がかりに関連福祉施設、通所授産施設、生活訓練施設が県下の要所要所にでき（現在しらぎく家族会のある加賀市幸町に、通所授産施設はるかぜワーク、生活訓練施設ひだまり寮があります）更には精神障害者福祉工場（一般就労のできる程度の作業能力はあるものの、対人関係や健康管理などの理由で一般就労が困難な者を雇用し、社会的自立の促進をはかる施設）が出来たら素晴らしいなと夢みます。私達家族会ならびに関係者が力を合わせて、先頭を切って建設運動を展開、幾多のハードルを乗り越え、大目標を達成したいと願っております。

その実現への光がさすということになれば患者（メンバー）に強力な社会復帰への希望と路すじが明らかになります。

これは私の体験上持論ですが、人間心を起こして初めて体の機能が活発になってまいりま

す。その心が起きるよう、施設造りは勿論ですが、メンバーさんと直接対話の面からも入りたいと希求しています。

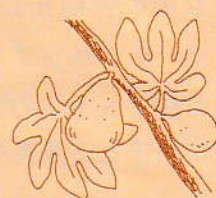


もう一つ申し上げたいことは、県のセンターは2年前に福祉を追加して石川県精神保健福祉センターになっています。それにひきかえ家族会の名称は以前のままで何ら変革が見られません。ここ10年でも関連法改正があり行政の対応、福祉施策の面で相当の前進が見られます。このあたりで家族会も新しい名称を考えたら如何でしょう。

ヒントの一つは障害者の3字をカットし石川県精神福祉家族会とする。ずいぶん感じと言葉のひびきが明るくなります。

このことを提案するとしたら何がネックになるのでしょうか。関係先や中央にも働きかけなければならないでしょうが……。

この際思い切って提案したいと思っています。以上、日頃考えていることを書いて見ました。お気付の点なんなりとご教示をお願いしまして私の挨拶といたします。



みんな大変なんだ！

鳴和の里 会長 浦田 節子

共同作業所『鳴和の里』が金沢市東部に開設されて今年で5年になります。この機会に全家族が日頃思っていることをまとめてみようということで、記念の冊子を作ることになりました。10月発行を目途に原稿書きや編集に汗を流しています。

私は原稿依頼のために家族の方々と直接お話しする機会がありました。

「当てにしていた息子が病気になり、家のローンもあるし……無理をしてでも病み上がりの夫に働いてもらわねば」「母親が倒れると子供も調子が悪くなる」「歳をとると子供のことに関わるのがだんだんおっくうになってくる」「いつどうなるか爆弾を抱えているようだ」などの生の声をたくさん耳にしました。「そうなんです。私もいっしょなんです。」と自分の今後をみているようでした。

父親・母親のどちらかが病気入院中の方、退院はしたが自宅療養中で外出できない方が何と家族会全員の4分の1近くいらっしゃるのです。『鳴和の里』を作るため一緒に集まっていた家族の方も、入院生活を余儀なくされていま

す。

10年、20年と長い付き合いの病気です。病気と障害を併せもつわが子を抱えて、家族は疲れきっています。その上、家族の一人が倒れたらどんなに大変であるか身にしみます。

この取り組みを通して感じたことは、皆大変なんだ！精一杯やっているんだ！ということなんです。

このような厳しい状況の中にあって、鳴和の里家族会例会には、約3分の2の方が出席されています。改めて高い出席率だと思いました。孤立しがちな中で、心の安心がほしい、何かよい情報を知りたい、良い知識がないか、今のうちに何かしなければという気持ちが伝わってきます。それにこたえられる家族会にしていかなければ、と思います。

幸い、金沢市の障害者プランの中に精神障害者の項目がかなり多く盛りこまれており、それが救いです。これらの項目が一日も早く実現することを祈るばかりです。プランの実現のためにも元気のでる家族会でなければと思っています。

署名活動はすすんでいますか

「署名お願いします」「えっ、あなた達はまだJR割引になっていないんですか」と、一緒に連れ立って来たお子さんにも署名をすすめてくださるお母さん。「ありがとうございました！」先日、金沢の福祉のつどい会場でのひとこまです。

会員のみなさまのお手元にも「手帳サービス拡大に関する請願書」の署名用紙が届いていると思います。保健所、作業所、病院だけでなく、広範な団体に協力依頼していきましょう。身体

障害者、知的障害者の団体や民生委員、町内会、ライオンズクラブなどへの協力依頼をする、ボランティアの協力を得て活動する等が考えられます。また、学校や役所、企業、組合などにもお願いしてはどうでしょうか。

いろいろな団体に署名をお願いすることによって、精神保健福祉施策についての理解を深めてもらえるでしょう。また、街頭宣伝、署名、募金活動は、一般市民に精神障害者のことを知ってもらう絶好の機会となります。

●●● お知らせ ●●●

今年は少しかわります 精神障害者家族会と 病院長との懇談会

- 日程 平成10年11月4日(水)
- 場所 石川県精神保健福祉センター
金沢市南新保町ル3-1
- 内容 午前 県連主催で行政との懇談
午後 精神障害者家族会と病院長と
の懇談会
・講話
・懇談会

各家族会を通じて、行政の方や、医療関係の方への質問・要望などをお寄せください。

いよいよ専門委員会発足

- ・平成10年度の活動内容
県への要望書を含めた福祉施策要望活動と精神保健福祉の勉強会
- ・開催日
10年度は原則毎月1回
- ・構成メンバー
常務理事数名と会員数名
昨年からの懸案であったこの会が本年度発足することができました。
みなさまの助言をお待ちしております。



みんなで歩けば道になる 全家連東京大会

- 日程 平成10年11月16日(月)・17日(火)
- 場所 京王プラザホテル(16日)
日本武道館(17日)

内容

- 16日 ・分科会
・シンポジウム「新しい精神医学への展望」
・精神障害者家族会国際セミナー
- 17日 ・シンポジウム「当事者運動が状況を変える」
・大会式典
・街頭アピール

家族会で旗をつくって参加しよう

家族会の 新会長さんです よろしく!

- | | |
|--------|-------|
| のぞみ会 | 笠島 和夫 |
| しらぎく会 | 梶 義伸 |
| けやきの森 | 高谷紀代子 |
| 鳴和の里 | 浦田 節子 |
| ことじ家族会 | 酒井 睦子 |

編集後記

先日、このいしかれんだよりを「もっと見易く興味ある内容に」という助言をいただきました。これからは、この助言に添うよう努めながら、会員の皆様と一緒に、活動や記録、思いを綴ってゆきたいと思いますので、具体的な提案をお寄せください。